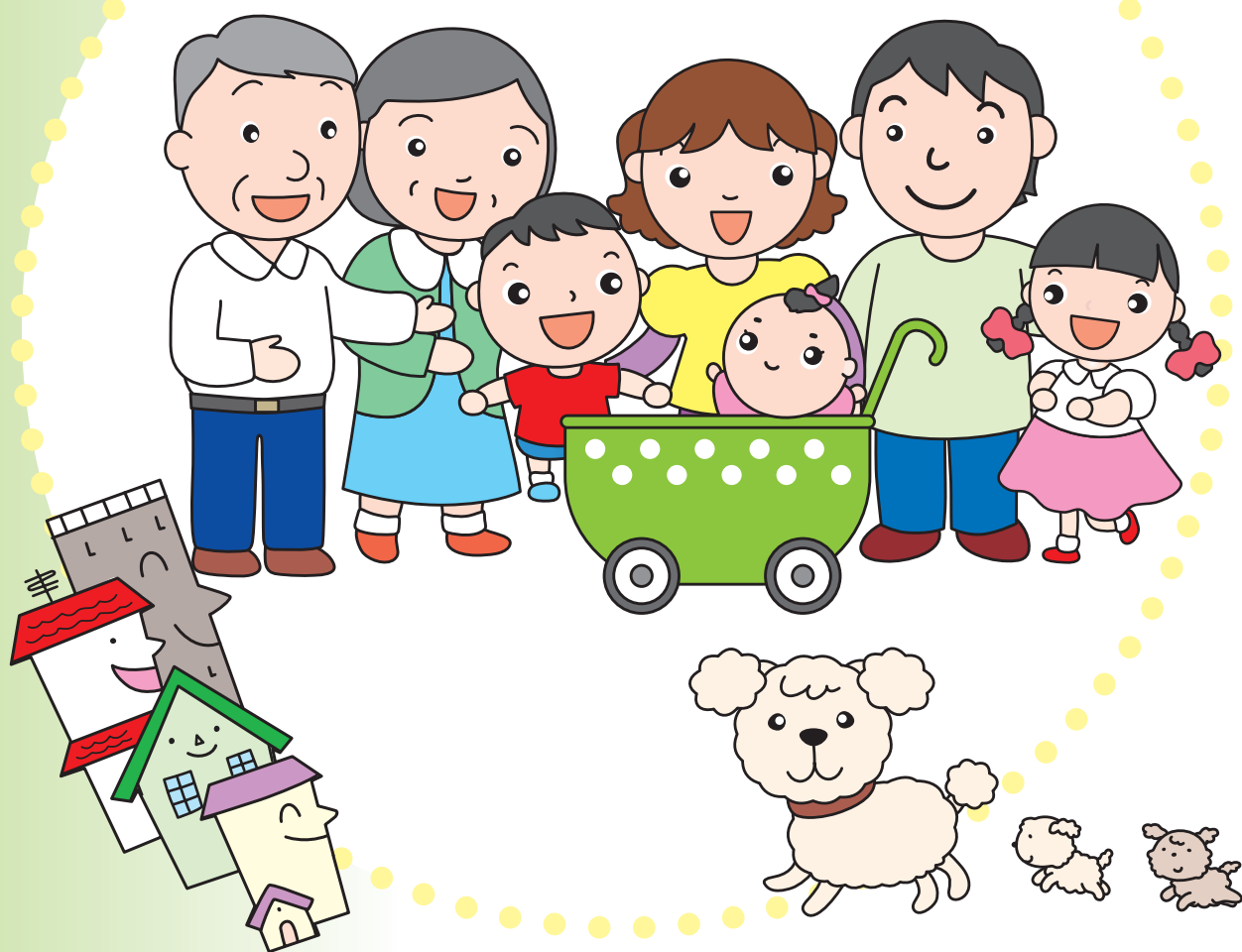


南丹市でしあわせに 暮らすために…



発行
社会福祉法人 南丹市社会福祉協議会



も く じ

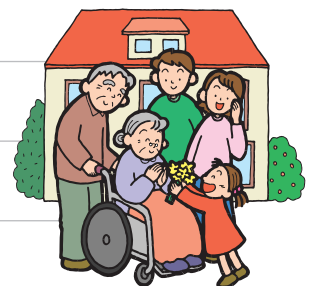
はじめに

1. 南丹市民823世帯に聞きました！

2. 調査から見えてきたこと…

- ①くらしの困りごと・心配ごと
- ②家計の状況～かさむもの・きりつめているもの
- ③健康の状態
- ④隣近所とのつきあい
- ⑤相談相手
- ⑥地域活動・ボランティア活動への参加
- ⑦定住意識
- ⑧身近な地域の課題
- ⑨まちづくりの条件

3. 南丹市でしあわせに暮らすために





はじめに

● 調査の目的

今回の調査は、南丹市社会福祉協議会が市民のきめ細かなくらしの実態と、そこから提起される課題を明らかにすることを目的に行ったものです。2009年（平成21年）3月に策定した、「南丹市地域福祉活動指針（なんたんふれあいプラン）」を見直すための資料として利用します。

次期指針は、2014年（平成26年）に策定予定です。

● 報告書小冊子の目的

この冊子では、調査で明らかとなった内容の中で、とくに住民の皆さんと一緒に考えていきたいことを中心に掲載しています。

この冊子を手に取っていただき、それぞれの地域で話し合いを進める中で、くらしの場としての地域の特性をふまえ、くらしの課題にきめ細かに対応できるような住民の活動が発展できると考えています。

ぜひ、多くの皆さんとともに、安心できる南丹市の未来を創っていききたい、それが南丹市社会福祉協議会の願いです。

1

南丹市民 823世帯に聞きました!

今回の調査は、南丹市全域から特徴的と思われる地域を選択し、選んだ地域（集落）の全世帯を対象に実施しました。

南丹市社協職員77名と大谷大学の学生調査員36名で2011年7月31日～8月30日にかけて1軒1軒訪問させていただき、聴き取り調査を行いました。

市民の皆様のくらしの実態や地域の課題、地域福祉に関する20の質問項目に答えていただきました。

(学生調査員の感想)

交通の便が悪いのを問題と思わず、昔からこういう生活を過ごしているからと、これ以上欲を出す人は少なかったことが印象的だった。

要望については、社協や専門職に求めるのではなく、住民同士で助け合うことが大事だと考えられていた。



住んでいる地域に気になることがあっても、どこに相談したらいいかわからないと思うので、その改善が必要。

子育てをしている若いお母さんや、40・50代くらいの方は、社協や行政の取り組みの効果の実感を受けにくい。

NPOやボランティアをやっている方も多いのに、その民間団体と社協とのつながりがないところも多いようで、もったいない。



「今は」という言葉には「今は大丈夫やけど、先のことは分からない」という思いがあるのかな。その思いを聞くことが地域へ働きかけていく第一歩になると感じた。





3 人に 1 人が「老後のこと」(32.3%) や
「生計中心者の病気や事故」(28.2%) が不安と答えています。

4 人に 1 人が「年金が少ない」(25.9%) や
「家族の病気や事故」(23.2%) が不安と答えています。

5 人に 1 人が「税金が高い」(22.2%) と答えています。

なんだが、
くらしは不安が多い!!



● ● ● 3 ● ● ●

2 家計の状況～かさむもの・きりつめているもの

● だんだんゆとりがなくなっているな……という世帯は

衣服や家具、外食費や娯楽費などを、まずきりつめる傾向にあります。

● ゆとりが奪われてきているな……という世帯は

「住宅ローン」や「ガソリン代・車の維持費」「交際費」や税金や公的年金などの保険料が家計を圧迫しゆとりを奪ってきています。

● ゆとりがなくなってきた……という世帯は

「副食費」や「光熱費」、「教育費」「子どもの養育費」がかさんでくると、暮らしに「ゆとりがなくなっている」状況をあらわしています。

● 苦しくなってきた……という世帯は

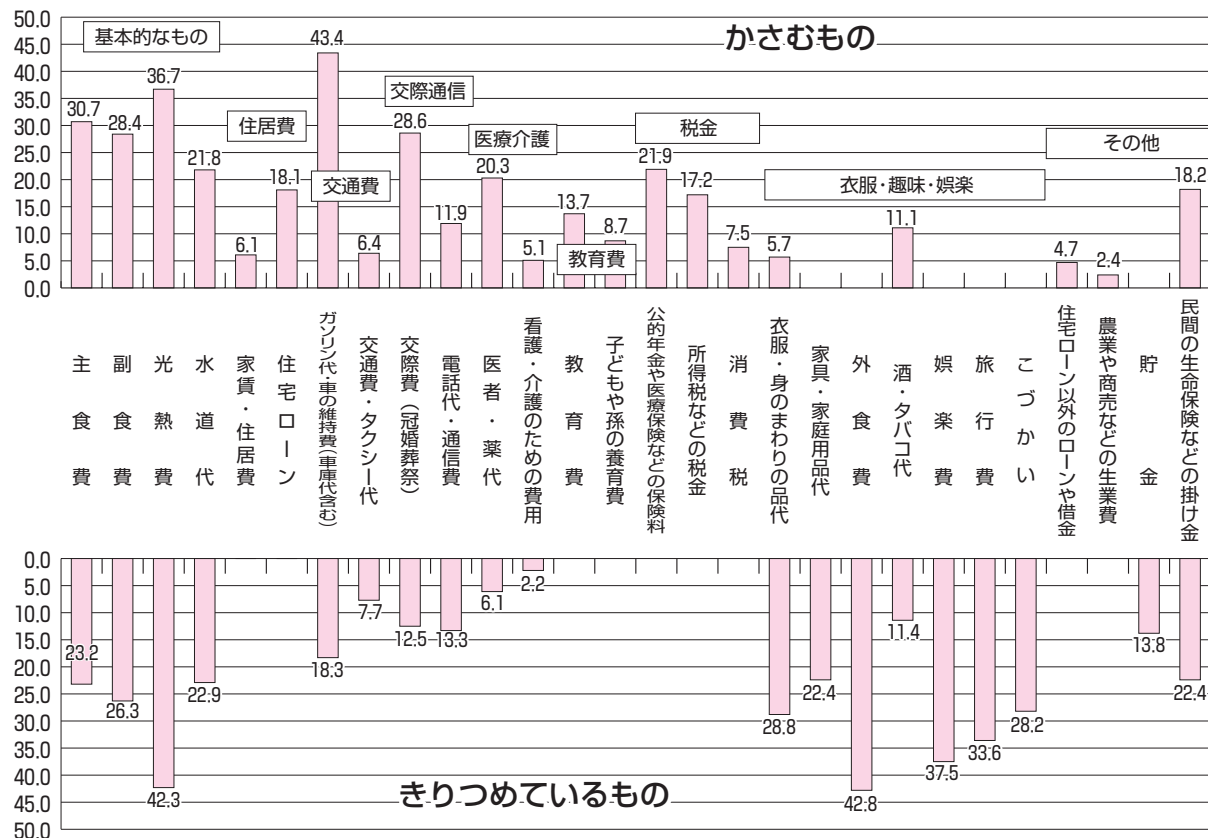
「主食」をきりつめているということはくらしむきが、「苦しくなっている」状況をあらわしています。

● かなり苦しい……という世帯は

「医者・薬代」、「交通費」がかさむ、あるいは「副食費」、「光熱費」、「交通費」などをきりつめっていると「かなり苦しい」状況をあらわしています。

- 今回調査の結果では、家計が苦しくなっている世帯が3割。かなり苦しい世帯が2割をこえていました。

図1 家計の状況





3 健康の状態

残念ながらあまり健康状態のよくない方が多く見られます

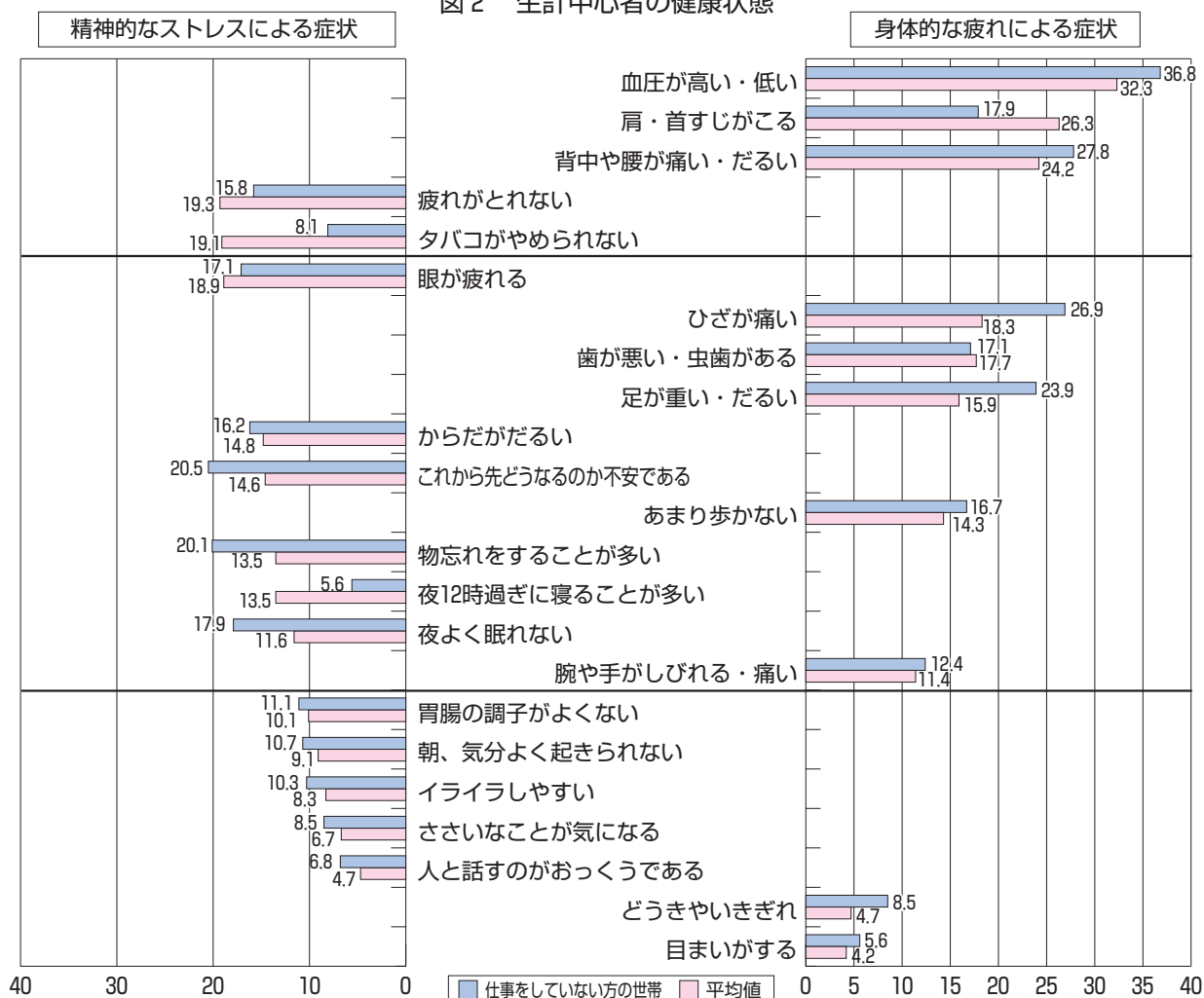
自覚症状としては、精神的なストレスによる症状と身体的な疲れによる症状があります。

血圧が高い（低い）方が多く、肩や背中、腰などの痛みやこりなどの身体的症状から、疲れがとれない状態へ。さらに、ひざや足、からだのだるさから、不安、よく眠れない状態へ。やがて、胃腸の調子やイライラ、人と話すことがおっくうになる、目まいがするなど、だんだんと症状が悪化していく様子が伺えます。



地域で健康を守る取組が求められています。

図2 生計中心者の健康状態



特に、仕事をしていない方の世帯では深刻な症状の割合がより高くあらわれています。

4 隣近所とのつきあい

隣近所とのつきあいが活発な方が多い！

- 65%が隣近所とくらしのことで助け合って生活しています。
- 3割があいさつする程度です。
- 3%がほとんどつきあっていません。

表1 近所づきあいの状況

	総 数	ほとん どつきあ ってない	挨拶 をする程 度	くらしの ことで助 け合っ ている
全体の合計値	100% 823	3.0 25	31.6 260	65.4 538
地域活動に参加していない	100% 128	8.6 11	50.8 65	40.6 52
地域活動に参加している	100% 695	2.0 14	28.1 195	69.9 486
ボランティアやNPO、くらしに関する学習会 など	100% 145		20.0 29	80.0 116
地域で相談できる相手がいない	100% 63	15.9 10	49.2 31	34.9 22
地域で相談できる相手がいる	100% 760	2.0 15	30.1 229	67.6 514



地域で気になる孤立世帯…

地域で相談相手がいない方や自治会などを含む地域の活動に参加されていない方は、ほとんど隣近所とつきあっておられない割合が高く、地域で孤立していると思われる方がおられます。

でも調査員が訪問するとていねいに応えていただきました。





5 相談相手

- 相談相手は身内が多いが、知人友人や近所の人をたよりにしている方も2割います。
- 専門職ではお医者さんがたよりになっています。
- 地域の活動に参加していない人のうち、「相談できる人がいない」と答えた方が1割。
- ボランティアやNPO、くらしに関する学習会に参加している方は、相談できる方の幅が広い！

図3 主な相談相手

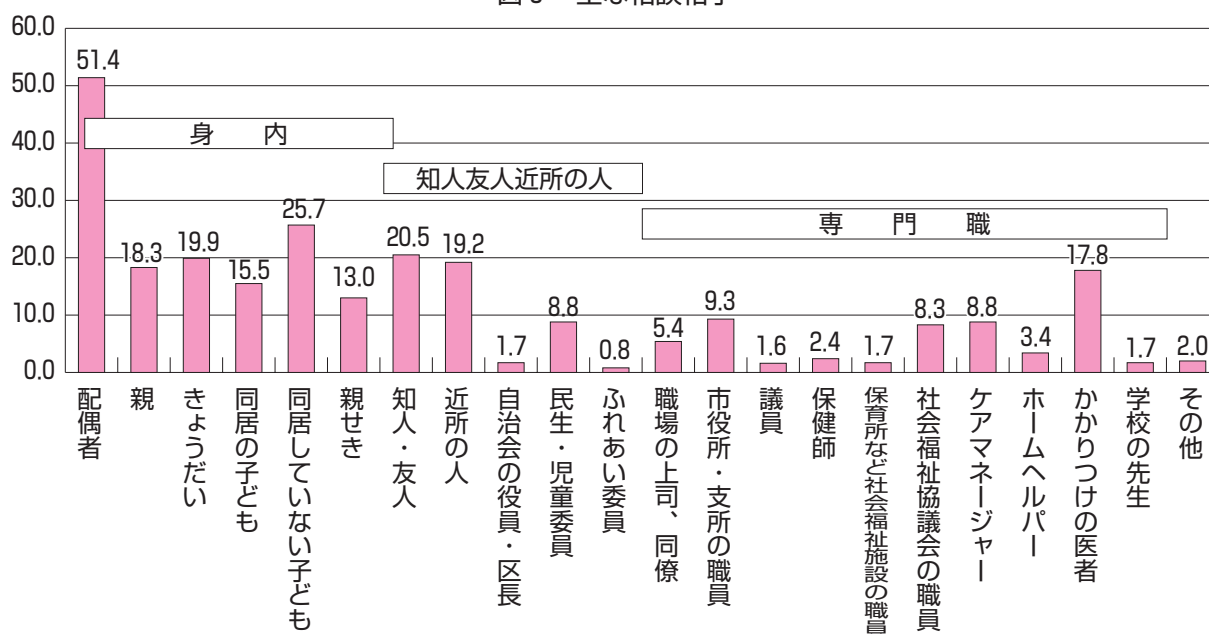


表2 地域の中で相談できる相手は

	総 数	い ない 相談 できる 人が	い る 相談 できる 人が	身 内 の み	職 の み 市 役 所 や 専 門	友 人 身 内 と 知 人・	ど 方 や 専 門 職 な 身 内 と 地 域 の
全体の合計値	100% 823	(7.7) 63	(92.3) 760	38.8 295	5.7 43	28.8 219	26.7 203
地域活動に参加していない	100% 128	(11.7) 15	(88.3) 113	46.9 53	9.7 11	26.5 30	16.8 19
地域活動に参加している	100% 695	(6.9) 48	(93.1) 647	37.4 242	4.9 32	29.2 189	28.4 184
町内会のみ	100% 133	(12.8) 17	(87.2) 116	40.5 47	2.6 3	28.4 33	28.4 33
ボランティアやNPO、くらしに関する学習会など	100% 145	(2.8) 4	(97.2) 141	31.2 44	6.4 9	27.0 38	35.5 50



ボランティアやくらしに関する学習会などは、地域の人間関係を広げます！



6 地域活動・ボランティア活動への参加

- 町内会や自治会に8割が参加しています。
- ボランティア活動に2割の方が参加しています。
- 雇用されて働いている世帯の参加を進める工夫が求められています。

図4 参加している地域活動

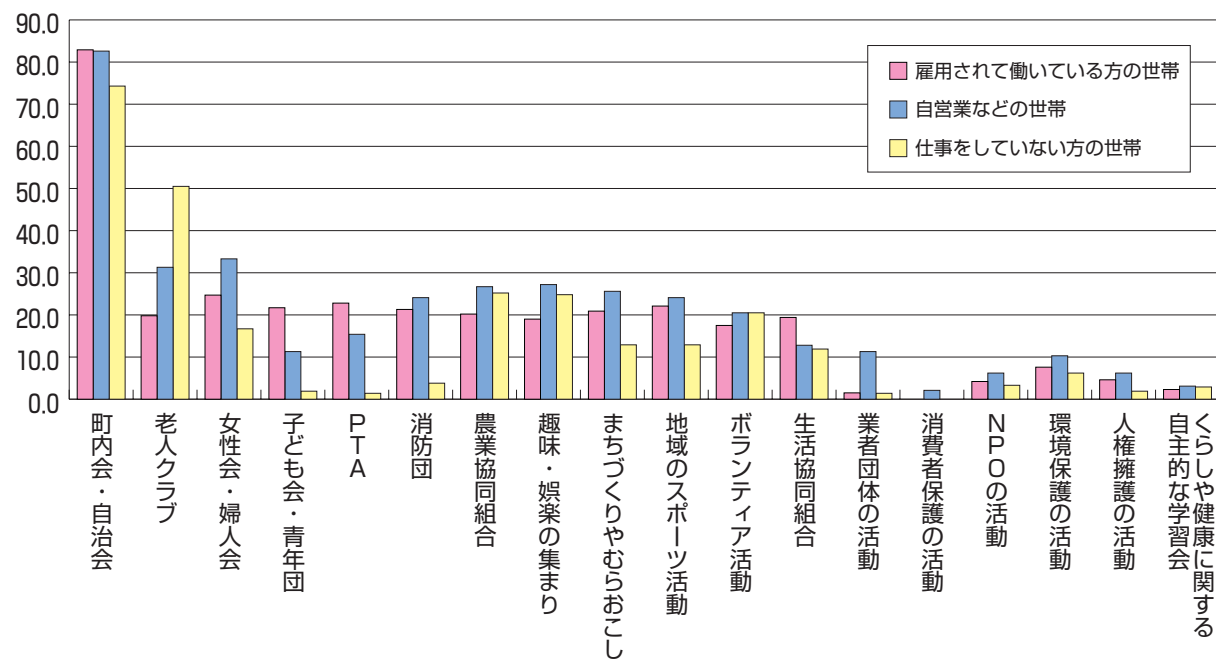
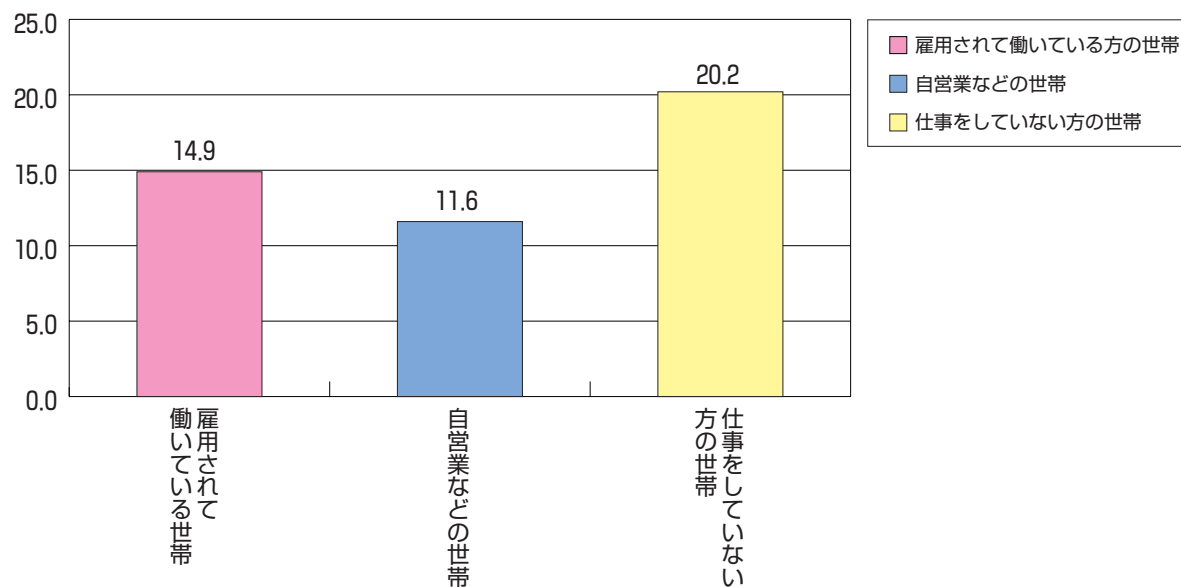


図5 活動に参加していない世帯



仕事をしていない方の世帯では、活動にかたよりがあき、参加していない方も多いという結果です。活動への参加の工夫が大切です。



7 定住意識

- 今住んでいる地域にこれからも住みつづけたい方は 8 割弱でした。
- でも、引越したい方も 1 割あります。
- 地域活動に参加していない世帯のうち引越したい割合が14.8%
- 相談相手がない世帯のうち、引越するか住みつづけるかわからないという回答が14.3%。
- 町内会だけに参加している世帯も、引越するか住みつづけるかわからないという回答が17.3%。
- ボランティアやNPO、くらしに関わる学習会に参加している世帯は、住みつづけたいと回答した割合が82.8%

表3 住みつづける意識

	総 数	住 み つ づ け た い	わ か ら な い	引 つ 越 し た い
合 計	100% 823	77.2 635	12.6 104	9.1 75
地域活動に参加していない	100% 128	65.6 84	15.6 20	14.8 19
地域活動に参加している	100% 647	78.7 509	12.4 80	8.3 54
町内会のみ	100% 133	70.7 94	17.3 23	11.3 15
ボランティアやNPO、くらしに関わる学習会 など地域に相談相手がない	100% 145	82.8 120	11.7 17	4.8 7
地域に相談相手がない	100% 63	73.0 46	14.3 9	11.1 7



地域のつながりが、住みつづけたいという意識と大きく関係しています。
住みつづけたいという意識は地域を愛することと連動しています。

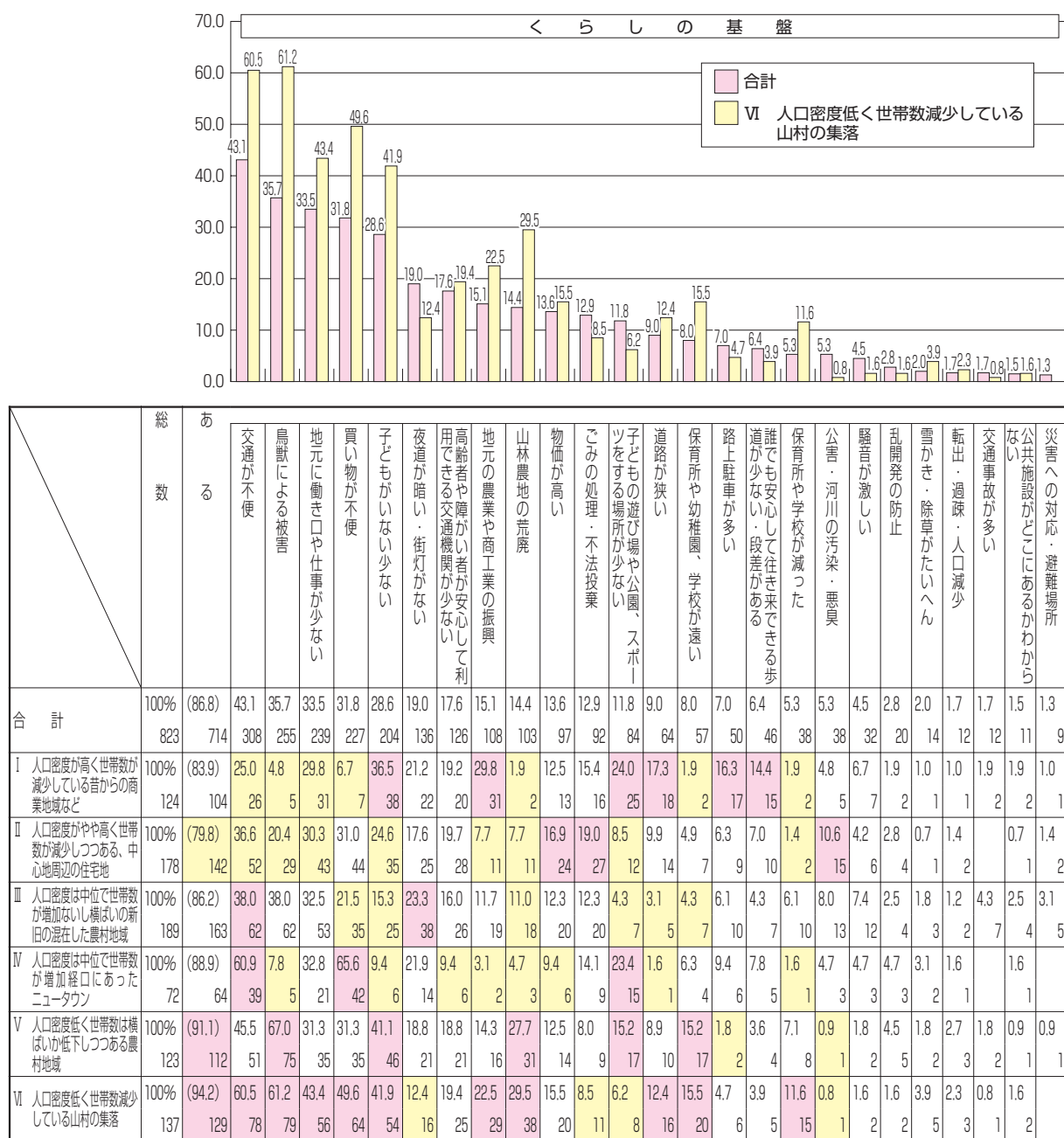


8 身近な地域の課題

- 約半数の世帯が「交通が不便」と答えています。
- 3人に1人以上が「鳥獣による被害」や「地元に働き口や仕事がない」と答えています。
- 3人に1人が「買い物不便」と答えています。

これらは、社会保障・社会福祉の前提条件です。このような「くらしの基盤」が整わないと、高齢者や障がいのある方にとっては、いっそう住みにくいと感じられる地域になってしまいます。

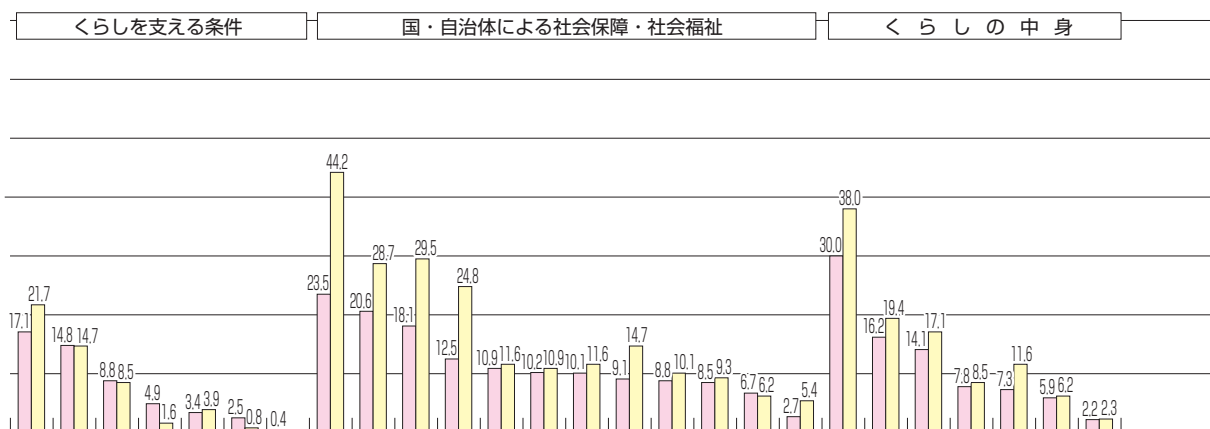
表4 日頃地域の中で何とかしなければならないと思っていること（複数回答）





- 「医師や看護師・保健師などの医療従事者が少ない」や「救急・休日・夜間の医療体制が不十分」など医療に関することも高い割合です。地域でくらし続ける上でのなくてはならない条件です。

そして3割の方が「ひとり暮らし高齢者のこと」が心配であると答えています。



とくにない	その他	母子・父子世帯のこと	子育ての不安をかかえている世帯のこと	くらしに困っている世帯のこと	障がい児・者がいる世帯のこと	働けなくなった高齢者のこと	寝たきりや病気・認知症などの高齢者をかかえている世帯のこと	ひとり暮らしの高齢者のこと	くらしや福祉のことで気軽に相談できる窓口が減っていること	障がい児や障がいのある人のための施設が少ないこと	くらしや医療・福祉のことでいつでも相談できる専門職員が少ないこと	特別養護老人ホームや老人保健施設が少ないこと	いつでも診てくれる医療機関が身近に少ないこと	くらしや医療・福祉のことで利用できる窓口が少ないこと	くらしや福祉のことで気軽に利用できる窓口が少ないこと	お年寄りが安心して気軽に利用できるサービスが少ないこと	往診をしてくれる医療機関が身近にないこと	役所や保健所などくらしにかかわる施設が遠くて不便なこと	救急・休日・夜間の医療体制が不十分なこと	医師や看護師・保健師などの医療従事者が少ないこと	近所つきあいが大変なこと	くらしや健康・福祉に関する学習会が少ないこと	いつでも気軽に利用できる会議室・集会所がわからないこと	子どもの非行・いじめ	住民相互のまとまりや助け合いが乏しいこと	若い人と高齢者との世代間交流が乏しいこと	自治会や地域団体の役員のなり手が少ないこと
(13.2)	0.8	2.2	5.9	7.3	7.8	14.1	16.2	30.0	2.7	6.7	8.5	8.8	9.1	10.1	10.2	10.9	12.5	18.1	20.6	23.5	0.4	2.5	3.4	4.9	8.8	14.8	17.1
10	6	16	42	52	56	101	116	214	19	48	61	63	65	72	73	78	89	129	147	168	3	18	24	35	63	106	122
(16.1)	1.9	1.9	4.8	4.8	3.8	9.6	15.4	27.9	1.0	3.8	11.5	11.5	5.8	7.7	15.4	9.6	7.7	12.5	10.6	8.7		4.8	9.6	6.7	11.5	19.2	26.0
2	2	2	5	5	4	10	16	29	1	4	12	12	6	8	16	10	13	11	9	9		5	10	7	20	27	27
(20.2)	1.4	2.8	3.5	7.0	7.0	15.5	16.9	30.3	2.8	7.0	9.9	4.9	6.3	14.1	13.4	9.2	9.9	17.6	23.2	18.3	26		3.5	2.1	5.6	20.4	19.0
3	2	4	5	10	10	22	24	43	4	10	14	7	9	20	19	13	14	25	33	26	26		5	3	8	29	27
(13.8)		7	9.8	8.0	12.9	14.1	16.6	28.8	2.5	11.0	7.4	9.8	9.2	8.6	8.0	9.8	9.2	16.0	23.3	22.7	0.6	0.6	1.2	6.7	7.4	11.7	11.0
2			16	13	21	23	27	47	4	18	12	16	15	14	13	16	16	38	37	37	1	4	2	11	12	19	18
(11.1)	3.1		6.3	3.1	3.1	9.4	9.4	14.1		3.1	3.1	4.7	7.8	7.8		9.4	9.4	14.1	29.7	34.4		1.6	3.1	4.7	3.1	4.7	4.7
	2		4	2	2	6	6	9	2	2	2	3	5	5		6	6	9	19	22			2	3	2	3	3
(8.9)			3.6	6.3	7.1	16.1	16.1	33.0	2.7	5.4	8.0	10.7	9.8	8.9	9.8	16.1	12.5	8.9	15.2	15.2	15.2	1.8	1.8	3.6	5.4	14.3	17.0
1			4	7	8	18	18	37	3	6	9	12	11	11	11	18	14	10	17	17	17	2	2	4	6	16	19
(5.8)			6.2	11.6	8.5	17.1	19.4	38.0	5.4	6.2	9.3	10.1	14.7	11.6	10.9	11.6	24.8	29.5	28.7	44.2		0.8	3.9	1.6	8.5	14.7	21.7
		3	8	15	11	22	25	49	7	8	12	13	19	15	14	15	32	38	37	57		1	5	2	11	19	28

※地域の問題はそれぞれの地域の特徴によって違いがあります。人口も世帯も減少傾向にある山村地域では、くらしの基盤に関する問題が多く出されています。

- 半数近くが住民同士の交流や対話を進める必要があると回答しています。
- 3割の方が高齢者や障がいのある方と子どもや若い人との交流が大切と回答しています。

担い手・担い手となるべき人・組織の役割	割合 (%)																	
住民による活動や交流	44.7																	
行政による条件整備	31.3																	
社協の役割	26.4																	
その他	17.0																	
ボランティア活動や地域福祉活動の拠点を整備する	16.9																	
ボランティア活動や地域福祉活動のことで相談できる専門職を増やす	14.7																	
自治会が住民の身近なくらしや健康、安全・防犯などの問題に取り組む	13.9																	
民生委員・ボランティアと自治会の協力・連携を広げる	13.1																	
身近な地域で住民のくらしや福祉について懇談する機会をつくる・増やす	7.9																	
高齢者や障がい者と子ども・若い人たちの交流を広げる	26.4																	
自治会職員が住んでいる地域で福祉活動やボランティア活動に積極的に参加する	19.0																	
身近な地域に障がい者や子ども、高齢者などがいつでも利用できる施設を整備する	12.6																	
行政の施策を分かりやすく住民に知らせる	11.3																	
地域で自主的に行われている福祉活動を支援する	9.4																	
地域で取り組まれている活動の交流や学習会を開催する																		
くらし・健康や福祉にかかわる職員と住民が交流・学習できる機会をつくる																		
ボランティア活動・地域福祉活動への参加者をもっと増やす																		
	総数	住民相互の日常的な対話交流を広げる	高齢者や障がい者と子ども・若い人たちの交流を広げる	身近な地域で住民のくらしや福祉について懇談する機会をつくる・増やす	民生委員・ボランティアと自治会の協力・連携を広げる	自治会が住民の身近なくらしや健康、安全・防犯などの問題に取り組む	ボランティア活動・地域福祉活動への参加者をもっと増やす	くらし・健康や福祉にかかわる職員と住民が交流・学習できる機会をつくる	学習会を開催する	地域で取り組まれている活動の交流や学習会を開催する	地域で自主的に行われている福祉活動を支援する	行政の施策を分かりやすく住民に知らせる	自治会職員が住んでいる地域で福祉活動やボランティア活動に積極的に参加する	身近な地域に障がい者や子ども、高齢者などがいつでも利用できる施設を整備する	ボランティア活動や地域福祉活動の拠点を整備する	ボランティア活動や地域福祉活動のことで相談できる専門職を増やす	その他	とくにない
合 計	100% 823	44.7 368	31.3 258	26.4 217	17.0 140	16.9 139	14.7 121	13.9 114	13.1 108	7.9 65	26.4 217	19.0 156	12.6 104	11.3 93	9.4 77	0.7 6	25.8 212	
I 人口密度が高く世帯数が減少している昔からの商業地域など	100% 124	49.2 61	34.7 43	34.7 43	19.4 24	20.2 25	12.1 15	13.7 17	10.5 13	7.3 9	29.0 36	20.2 25	12.9 16	7.3 9	8.9 11	1.6 2	22.6 28	
II 人口密度がやや高く世帯数が減少しつつある、中心地周辺の住宅地	100% 178	42.1 75	30.3 54	21.9 39	17.4 31	12.9 23	16.9 30	14.6 26	13.5 24	7.9 14	29.8 53	18.5 33	15.7 28	14.6 26	10.1 18	1.1 2	24.7 44	
III 人口密度は中位で世帯数が増えないし横ばいの新田の混在した農村地域	100% 189	50.3 95	33.9 64	28.0 53	14.8 28	15.3 29	16.4 31	11.6 22	13.2 25	8.5 16	22.8 43	17.5 33	10.1 19	10.1 19	7.9 15		24.9 47	
IV 人口密度は中位で世帯数が増加経口にあったニュータウン	100% 72	41.7 30	18.1 13	27.8 20	8.3 6	12.5 9	4.2 3	9.7 7	6.9 5	4.2 3	36.1 26	13.9 10	9.7 7	4.2 3	6.9 5		27.8 20	
V 人口密度低く世帯数は横ばいか低下しつつある農村地域	100% 123	39.0 48	37.4 46	27.6 34	22.8 28	19.5 24	19.5 24	16.3 20	20.3 25	8.9 11	18.7 23	24.4 30	13.8 17	15.4 19	11.4 14		30.9 38	
VI 人口密度低く世帯数減少している山村の集落	100% 137	43.1 59	27.7 38	20.4 28	16.8 23	21.2 29	13.1 18	16.1 22	11.7 16	8.8 12	26.3 36	18.2 25	12.4 17	12.4 17	10.2 14	1.5 2	25.5 35	

• • • 12 • • •



3 | 南丹市で しあわせに暮らすために

1 調査結果とくらべてみましょう。

あなた自身が住んでいる地区（集落）はどんな状況ですか？

あなたやあなたの近くの方たちのくらしの状況・課題は？

2 どんな「しあわせ」をめざすのでしょうか？

おカネやモノさえあったらしあわせ？

あなたにとっての「しあわせ」は？

3 みんなで話し合ってみましょう。

しあわせに暮らせる地域って？

わたしたちにできることは？



「ワークショップ」で話し合おう！

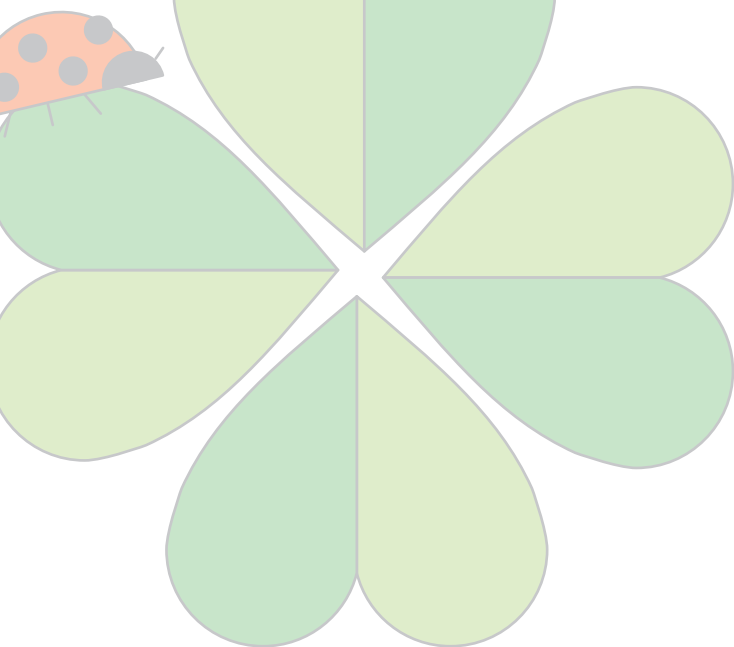


● 「ワークショップ」とは？

もともとの意味は、「工房」「作業場」です。さまざまな立場の人々が集まって、自由に意見を出し合い、お互いの考えを尊重しながら、意見や提案をまとめ上げていく場です。

みんなが参加しやすい工夫をしながら、一緒に話し合ってみましょう。

「具体的にどうやって話し合ったらいい？」というときには、社会福祉協議会にもご相談ください。



発行：社会福祉法人 南丹市社会福祉協議会
平成24年 4 月

作成協力：志藤 修史(大谷大学)

● 問い合わせ連絡先 ●

社会福祉法人 南丹市社会福祉協議会

本 所	〒629-0301	南丹市日吉町保野田垣ノ内11番地 TEL:0771-72-3220 FAX:0771-72-3222
園部支所	〒622-0014	南丹市園部町上本町南 2 番地22 TEL:0771-62-4125 FAX:0771-63-5606
八木支所	〒629-0134	南丹市八木町西田山崎17番地 TEL:0771-42-5480 FAX:0771-42-4412
日吉支所	〒629-0301	南丹市日吉町保野田垣ノ内 6 番地 4 TEL:0771-72-0947 FAX:0771-72-0732
美山支所	〒601-0722	南丹市美山町安掛下 8 番地 TEL:0771-75-0020 FAX:0771-75-0829
